

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	WebデザインⅡ		（ NGM10B ）
講義名（コード）	WebデザインⅡ		（ NGM10BX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	水野 泰雄・水野 翔	時間数	30
成績評価教員	水野 泰雄・水野 翔	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	有限会社デザインルーム エム所属	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	webサイトの設計とマルチデバイス対応をより効率的に進めるためのワークフローをwordoressを使って理解・制作する実践編
全体の内容と概要	ホームページのデザイン(概論・概要)・制作基礎・実践を学びます(html・CSSの基礎・応用)
授業時間外の学修	上田商工会議所のSNS・webサイトとの授業連動(予定)
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	コーディングのスキルを覚える 1	前期の復習と、HTML・CSSの基礎を身に付ける
2	コーディングのスキルを覚える 2	HTML・CSSのの実践編
3	WordPressブログを始める手順 1	WordPressとは～と、初期設定(詳しくは二年次へ)
4	WordPressブログを始める手順 2	WordPress管理画面についてと、Googleアナリティクスとサーチコンソールの設定(詳しくは二年次へ)
5	Web制作現場の基礎知識取得 1	Adobe Photoshopでの演習(グラフィックデザイン基礎との併用)
6	Web制作現場の基礎知識取得 2	Adobe Illustratorでの演習(グラフィックデザイン基礎との併用)
7	Web制作現場の実践 1	実践に即したバナーやLINKボタンなど各部品デザイン・作成
8	Web制作現場の実践 2	ページデザインの作成方法を学ぶ
9	Web制作現場の実践 3	ページデザインのコーディングを学ぶ
10	実際の演習を身に付ける 1	本物のサイト受注から打ち合わせ・制作・検収・納品までの流れを覚える
11	実際の演習を身に付ける 2	本物のサイトヘデータアップする時の注意点や見栄えを学ぶ
12	実際の演習を身に付ける 3	実際の依頼に合わせて制作・評価を見る
13	実際の演習を身に付ける 4	全員でのデザインコンテスト & ディスカッション
14	まとめと解説	全体を通しての Q & Aとおさらい
15	まとめと解説	コンテスト結果発表と評論 & 来年度へのお願い

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	上田商工会議所のSNS・webサイトとの授業連動(予定) 担当教員はWEBデザインの実務経験を活かし、WEBデザインの基礎から実践までを体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Web経営Ⅱ		（NGM10H）
講義名（コード）	Web経営Ⅱ		（NGM10HX）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	ryui	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	（有）デザインルームエム	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	オンラインでチームをつくり、活動できるようになる
全体の内容と概要	ストーリーテリングの考え方にに基づき、具体的なテーマを設定してwebを活用した活動を行う
授業時間外の学修	オンラインの活動
履修上の注意事項 等	パソコン、スマホのどちらでも作業ができるように練習する

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	冒険2に出かけよう1	課題を設定して実行できる
2	冒険2に出かけよう2	課題を設定して実行できる
3	冒険2に出かけよう3	課題を設定して実行できる
4	冒険2の結果をまとめよう1	課題実践の振り返りができる
5	冒険2の結果をまとめよう2	実践内容を説明できる
6	物語を修正しよう2	前期最初に設定した内容を評価修正できる
7	冒険3を計画しよう1	課題を設定することができる
8	冒険3を計画しよう2	経営計画を立てることができる
9	冒険3に出かけよう1	課題を設定して実行できる
10	冒険3に出かけよう2	課題を設定して実行できる
11	冒険3に出かけよう3	課題を設定して実行できる
12	冒険3の結果をまとめよう1	課題実践の振り返りができる
13	冒険3の結果をまとめよう2	実践内容を説明できる
14	後期まとめ1	後期の学習内容を説明できる
15	後期まとめ2	後期の学習内容を説明できる

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	AIは作業プロセスの中で積極的に活用する

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	色彩		（ NGM10I ）
講義名（コード）	色彩		（ NGM10IX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	長谷川 胖	時間数	30
成績評価教員	長谷川 胖	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	色とはなにか 写真・動画・デザインすべてにおいて基礎となる色彩の重要性を理解する
全体的内容と概要	無意識に色分している色彩を理解する
授業時間外の学修	色への関心をもつ
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	色彩-1	色彩とは何か
2	色彩-2	人が色をコントロールする
3	色彩原理法則	TVモニターと印刷物の比較、加色混合・減色混合について
4	写真・動画撮影に必要な事-1	色温度・ホワイトバランス 人の目は色についてとてもいい加減でありシビアなのか?
5	写真・動画撮影に必要な事-2	写真印刷の知識か
6	写真・動画撮影に必要な事-3	照明による色の表現、自然光と人工照明
7	写真映像の基礎と応用-1	色相・彩度・明度・コントラスト・前進色・後退色
8	ITパスポート試験対策 デジタル映像	デジタルカメラ イメージセンサー (CCDCiMOS)RGBRed256XGreen256XBlue=Coler16,777,216
9	写真映像の基礎と応用-2	色が人に与える影響を考える
10	実践で解る映像の世界	実践 ライティング 色温度 輝度・照度 色相・彩度・明度・コントラスト
11	実践で解る映像の仕上げと加工	実践 縮小拡大 複製 合成 色の変更 回転 変形 明度 彩度コントラスト
12	実践	実践 勉強した事をふまえて自由に撮影
13	撮影機材・画角/構成	実践 写真撮影について考える
14	メッセージの無い写真とある写真	実践
15	まとめ	まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	写真サンプル集
参考文献・資料等	制作物の資料
備考	1眼レフカメラとスマートフォンカメラを使用する

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	パソコン検定対策Ⅱ		（ NGM10L ）
講義名（コード）	ビジネスコンピューティングⅡH		（ NKT13MH ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	表計算ソフトExcelの基本操作・機能を習得し、実務への活用方法を学習する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 前期でWord・PowerPoint、後期でExcelを学習します
授業時間外の学修	操作環境がない学生がほとんどだと思いますので、メニューの操作方法、数式の入力など テキストや授業時配布されたプリントで復習してください
履修上の注意事項等	資格取得の意欲のある学生には、資格試験（MOS・日商PC検定）の練習もおこなっていきます

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Excelの基本操作ができる	Excelの基礎 起動→画面構成確認 新規作成→入力方法・オートフィル練習→保存
2	表の挿入・編集ができる 合計を計算できる	表の作成 表の作成・書式設定・SUM関数
3	グラフの作成ができる	Excel グラフ作成 (グラフの種類と効果・縦棒、円グラフの作成・書式の変更)
4	オートSUMボタンの関数を理解できる	オートSUMボタンの関数 (SUM・AVERAGE・COUNT・MAX・MIN) 学習 データよりグラフ作成
5	RANK.EQ関数で 順位づけと関数の挿入ができる	順位づけ (RANK.EQ関数) Fxボタンよりの関数の挿入・検索の仕方 相対参照と絶対参照のちがいと切り替え方法
6	ROUND・UP・DOWN関数で 端数処理の意味を理解できる	ROUND・ROUNDUP・ROUNDDOWN関数のちがいと桁数の設定
7	条件判定と比較演算子の意味を理解できる	IF関数を使った条件判定の入力の仕方、比較演算子の意味と使い方
8	関数のネスト方法を理解できる	3つ以上の条件判定、関数のネストの入力方法
9	VLOOKUP関数を活用した 効率的な処理方法を理解できる	VLOOKUP関数の構造と使用方法
10	表検索入力の方法を理解できる	VLOOKUP関数とHLOOKUP関数のちがい
11	並べ替えとフィルター データの検索と抽出を理解できる	並べ替えの設定方法・フィルターの設定と抽出
12	条件付き書式とテーブル機能 視覚的なデータの把握と管理できる	カラースケール・データバー・アイコンセット他の条件付き書式の設定 テーブルの作成と機能の利用方法
13	ピボットテーブルの作成 機能を使ったデータ集計ができる	ピボットテーブルの作成・データの集計の変更方法
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスター Office2021
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	レベルに応じた資格試験の練習問題

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	WebリテラシーⅡ		（NGM11D）
講義名（コード）	WebリテラシーⅡ		（NGM11DX）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	水崎 歩実	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	（有）デザインルームエム	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	WEBビジネスを行う上で使用するWEBツールを活用でき、用途ごとに適切な使い分けができる
全体の内容と概要	
授業時間外の学修	授業時間内で完了できない課題がある場合、授業時間外で作業を行っていただく場合があります。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	フォーム作成と個人情報の扱い方がわかる	前期の振り返りと後期目指していくことの確認を行う。また、オンラインフォームを使ってアンケートの作成と個人情報取り扱いについて学ぶ。
2	プロジェクトを進めるうえで便利なツールの使い方がわかる	文化祭に向けて準備を行う。また、Notionを使用して企画実施に使用できる様々な使い方を確認する。
3	プロジェクト実施をするうえでのツールの役割がわかる	チームごとに分かれて、文化祭の最終準備を行う。また、文化祭終了後に行うことを確認し、それを踏まえて実施できるよう予定を立てる。
4	複数のツールを使って成果物を作成する方法がわかる	文化祭企画の振り返りをチームごとに行う。Googleドキュメント・生成AI等を活用して報告書を作成し、次年度の新入生へのアドバイスを作成する。
5	クラウドファンディングと向いている用途がわかる	資金調達・クラウドファンディングについて学び、概要を知る。また、気になるプロジェクトを見つけて、支援したいと思う心理について学ぶ。
6	同じことを繰り返す必要性和その効果がわかる	地域連携SNS事業の投稿取材計画を立てる。これまでの同アカウントを客観的に観察し、反応が良い投稿はどんな物があるかを考える。
7	一つの事業の改善方法とその管理方法がわかる	地域連携SNS事業の取材を行う。またその際、前期に行った取材の改善点を洗い出し、効率的に取材を行う方法を計画・実践する。
8	PDCAの考え方と実践の方法がある	繰り返し実践の効果とPDCAの考え方・方法について学ぶ。また、取材した素材を使用して投稿を作成する。
9	アナリティクスの概要と使い方、見方がわかる	SNSのアナリティクス機能の概要を知る。また、アナリティクスデータの基本的な用語や意味を確認し、分析の方法を学ぶ。
10	アナリティクスデータを踏まえた投稿計画を立てる方法がわかる	SNSで分析を行った結果から、どういった投稿が好まれるかを分析しまとめ、発表する。また、それを踏まえて投稿・取材計画を作成する。
11	分析を踏まえた取材と投稿の方法がわかる	分析を踏まえた取材を行い、目的に沿った素材集めを実施する。また、目的を見据えた発信をするにはどうするかを考えながら実践する。
12	口コミサイトの活用方法とマーケティングの効果がわかる	投稿作成口コミサイトのユーザー側の利便性と、提供者側の利便性を確認する。また、口コミをしたくなる仕組みを確認する。
13	無料HP作成サービスの概要がわかる	無料から使用できるHP作成サービスについて学ぶ。Wordpress等との違いと使い分け、目的別の構成などを確認し、実際にページの作成を行う。
14	まとめ	無料HP作成の作業を引き続き行う。その際、使用できる画像や引用ルール、著作権、生成AIで作成したコンテンツの利用方法について学ぶ
15	まとめ	HPの仕上げとプレゼンテーションを行い、評価とする。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	Canva基本&デザインTIPS！無限に役立つ使いこなしワザ152
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	グラフィックデザイン基礎Ⅱ	（NGM10F）	
講義名（コード）	グラフィックデザイン基礎Ⅱ	（NGM10FX）	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	寺島智子	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	前期で身に付けたスキルを活かし、実際に作品を制作し、定めた期日までに完成させる。その都度ソフトの振り返りをしながら足りないところを補い『とりあえずやってみる』のチャレンジ精神を育み
全体の内容と概要	課外授業で必要となる名刺や就職活動で必要となる履歴書用のポートフォリオの作品を作成し、さらに公募サイトに応募して実力を磨きます。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	名刺の制作方法を理解できるようになる。	名刺を制作することは販促物制作の基礎になることを説明し、実際に制作する。
2	名刺の制作方法を理解できるようになる。	前回に引き続き名刺制作。
3	履歴書の制作方法を理解できるようになる。	履歴書の制作を通し、オブジェクトとテキストの適切なレイアウトを解説する。
4	履歴書の制作方法を理解できるようになる。	前回に引き続き履歴書制作。
5	ロゴマークの制作方法を理解できるようになる。	どのロゴマーク公募作品に応募するか決める。
6	ロゴマークの制作方法を理解できるようになる。	ロゴマーク制作について説明する
7	ロゴマークの制作過程を理解できるようになる。	ラフ画を描いて、それに基づいて制作する。
8	ロゴマークの制作過程を理解できるようになる。	前回に引き続きロゴマーク制作。
9	制作したものを発表し相互理解できるようになる。	制作したロゴマークを発表し、その後公募先にデータを送る。
10	前回よりも制作方法が理解できるようになる。	どのロゴマーク公募作品に応募するか決める。
11	前回よりも制作過程を理解できるようになる。	ラフ画を描いて、それに基づいて制作する。
12	前回よりも制作過程を理解できるようになる。	前回に引き続きロゴマーク制作。
13	制作したものを発表し相互理解できるようになる。	制作したロゴマークを発表し、その後公募先にデータを送る。
14	illustratorのテクニックを理解できるようになる。	illustratorのテキストには載っていない、作業の「ムダ」がみえるなくなる実用テクニックを解説する。
15	新2年生の授業内容が理解できるようになる。	新2年生の「グラフィックデザイン応用」の内容を解説する。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	前期のを引き続きしようしますので後期は必要ありません
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	IT検定対策Ⅱ		（ NGM11N ）
講義名（コード）	IT検定対策Ⅱ		（ NGM11NX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小松一雄	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ネットワークセキュリティやデータベースおよびシステム開発の進め方について 基礎知識を学び、実務に生かすことを目指す。
全体の内容と概要	ネットワークセキュリティやデータベースおよびシステム開発の進め方に 関する基礎的な知識について習得する。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	期末テストを実施し、その点数を評価基準に用いる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	セキュリティの基本について理解する。	企業におけるセキュリティ活動、リスクマネジメント、ISMSについて説明する。
2	セキュリティ対策(その1)について理解する。	人的リスク、物理的リスクに関するセキュリティ対策について説明する。
3	セキュリティ対策(その2)について理解する。	技術的リスクに関するセキュリティ対策について説明する。
4	暗号化とデジタル署名について理解する。	共通鍵暗号、公開鍵暗号、デジタル署名について説明する。
5	セキュリティに関する理解力をつける。	セキュリティに関する過去問の演習を行う。
6	データベースの基本について理解する。	関係データベースの構成、演算、正規化およびE-R図について説明する。
7	データバックアップの基本について理解する。	排他制御、バックアップ方式、トランザクションについて説明する。
8	データベースに関する理解力をつける。	データベースに関する過去問の演習を行う。
9	システム開発の進め方について理解する。	SLCP(上流工程)について説明する。
10	システム開発の進め方について理解する。(続き)	SLCP(下流工程)、開発手法、アジャイルについて説明する。
11	プロジェクトマネジメントについて理解する。	PMBOK、WBS、PERTについて説明する。
12	サービスマネジメントについて理解する。	サービスマネジメント、ファシリティマネジメント、システム監査について説明する。
13	システム開発に関する理解力をつける。	システム開発に関する過去問の演習を行う。
14	期末テスト	期末テストの実施
15	期末テストのフィードバック	期末テストの問題について、解答を解説する。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ITパスポート合格教本
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネスプレゼンテーションⅡ		（ NGM11P ）
講義名（コード）	ビジネスプレゼンテーションⅡ		（ NGM11PX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	堀内 美穂	時間数	30
成績評価教員	堀内 美穂	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	パワーポイントを使いながら人前で自分の意見を発表する事ができる。見ている人がわかりやすいビジュアルツールを作成しプレゼンテーションを行う。様々な場面のビジネスシーンで役立てることができる。
全体の内容と概要	作成したPPTを使用し何度もプレゼンテーション練習を行う。PPTを作成する事だけでなく、正しい日本語を使って分かりやすい説明を行えるように話し方の練習もする。
授業時間外の学修	授業内だけでは発表準備が間に合わないため、家での練習も必要になる。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	プレゼンテーションとは何かがわかる	プレゼンテーションと何か。どんな場面でどのように使用するのか。例を見ながら正しいプレゼンテーションの方法を学ぶ。
2	プレゼンテーションをする前の準備の方法がわかる。	プレゼンテーション作成のステップ、注意する事などを学ぶ。PPTの使い方を学ぶ。
3	簡単なPPTを作成することができる。	写真を使った自己紹介PPTを作成する。
4	写真を使ったプレゼンができる。	PPTを使って自己紹介をする。
5	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンとは何かがわかる。	通信販売のプロモーションの方法とは何か。いくつかの動画を見て方法を見比べてみる。
6	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	身近な商品を使ってプロモーションをしてみる。
7	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	PPTを使って顧客を獲得する新商品のプロモーションを考える。
8	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	新商品のプロモーションを発表する。
9	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	新商品のプロモーションを発表する。
10	グラフの作成ができる。	簡単なデータをもとに違う種類のグラフを作成する。
11	国際問題についての現状を理解することができる。	自分の興味のある現在起こっている国際問題について調べ、現状・問題の原因についてまとめる。
12	国際問題についての現状を理解することができる。	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすくPPTにまとめる。自分の意見を交えた問題の解決法を考える。
13	国際問題についてPPTを使い発表を行うことができる。	作成したPPTを使い発表練習を行う。
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 クラスメートからの評価をもらう。
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 クラスメートからの評価をもらう。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	キャリアデザインⅡ		（NKT13Q）
講義名（コード）	キャリアデザインⅡH		（NKT13QH）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	・社会人として必要とされるマナーを習得する。・面接の流れを理解し、面接に向けての準備を整える。・ 志望する企業向けの履歴書を完成させる。
全体の内容と概要	・講義と演習により、面接へ向けて実践的なマナーやスキル、履歴書の記入方法を習得する。
授業時間外の学修	・自身の興味のある企業に関するリサーチ（インターンシップ含む）
履修上の注意事項等	・主体性をもって、授業に取り組む姿勢

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	後期に学ぶことを理解し、主体的に取り組むことができるようになる	【オリエンテーション】後期に学ぶこと、2回目よりニュースの発表 【演習】後期学びたいことについてグループワーク、マンドラチャートの記入
2	学生時代に力を入れたことが書けるようになる	【講義】学生時代に力を入れたことについての書き方 【演習】これまでの学生生活で力を入れたことのエピソードを記入
3	自分のスキルについて、文章にすることができるようになる	【講義】好きなこと、できること、得意なことを考える。資格について考える。 【演習】自分のスキルについて記入
4	志望する業界・企業を選択し、調査ができるようになる	【講義】企業研究の進め方、業界・業種と職種 【演習】志望する業界・企業について記入
5	競合他社について理解し、調査ができるようになる	【講義】競合他社とは 【演習】競合他社について調べ、発表（2分/人）
6	志望動機が記入できるようになる	【講義】志望動機 【演習】競合他社について調べ、発表（2分/人）
7	履歴書の書き方を理解し、記入できるようになる	【講義】記入方法やポイントについて、エントリーシートとは 【演習】志望企業向け履歴書作成、提出
8	履歴書を完成させることができるようになる	【講義】訂正ポイント説明 【演習】志望企業向け履歴書訂正、提出
9	面接の基本を理解することができるようになる	【講義】面接の種類と心構え、面接官の視点、身だしなみ、言葉遣い、 【演習】好印象を与える話し方の練習/個別面談
10	面接の流れを理解することができる	【講義】個人面接、集団面接の流れと対策、オンライン面接について 【演習】学生同士で練習/個別面談
11	実際の面接で聞かれる質問に備えることができるようになる	【講義】実際にあった面接質問例の紹介 【演習】質問例の回答を記入/個別面談
12	面接のテクニックを習得できるようになる①	【講義】面接の種類、面接での評価ポイント 【演習】学生同士で練習、模擬面接チェックシートに沿ってフィードバック
13	面接のテクニックを習得できるようになる②	【講義】面接の種類、面接での評価ポイント 【演習】学生同士で練習、模擬面接チェックシートに沿ってフィードバック
14	後期試験	【試験】選択・記述式(100点)
15	フィードバック、まとめ	【後期試験フィードバック】試験のフィードバック、後期のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日本能率協会マネジメントセンター「専門学校生のための就職内定 基本テキスト
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Webマーケティング基礎Ⅱ	（ NKT13S ）	
講義名（コード）	Webマーケティング基礎Ⅱ H	（ NKT13SH ）	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	吉田 達矢	時間数	30
成績評価教員	吉田 達矢	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	前期で学んだ理論や事例をベースに実践を行う
全体の内容と概要	WEBを使ってマーケティングを行うこと=WEBマーケティングということを理解するために実際にグループワークで実践を行う
授業時間外の学修	必要に応じて授業準備として事前に生徒間でグループディスカッションを行う
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期振り返り	前期の内容を振り返ってリマインド 後期の目標の共有（他の授業連携して実習する） グループ分け
2	ペルソナを作る	ターゲットがどういう人なのか探す方法 グループで実際に作業してペルソナを作ってみる
3	ペルソナの裏付けを取る	各グループでペルソナを発表して、互いに評価する ペルソナの精度を高めること
4	セルフブランディングする	SWOT分析を説明 自分たちの強み、弱み、機会、自分たちにとっての脅威をグループごとに分析して みる
5	3Cと4Pを理解する	商品を分析すること3C 市場を分析すること4P
6	3Cと4Pを実践する	グループごとに3Cと4P分析を行う グループごとに3Cと4P分析結果を発表し相互評価する
7	ペルソナと3C&4Pの関係を理解する	以前つくったペルソナと前回の3C&4Pの結果を照らし合わせ それらをまとめて、全体のバランスを調整する
8	ここまでの振り返り	やってきたことのつながりと関係をしっかりと確認する 疑問があればそれを解決する
9	NBLのブランディングを行う	グループごとにNBLのSWOT、3Cと4P分析をおこなう その結果からブランディングストーリーと生徒予備軍のペルソナを考える
10	NBLのブランディングを行う	グループごとに結論を発表、相互評価を行う NBLの良さを伝えるワードを考える（全員）
11	キャッチコピーを作る	NBLの良さを伝えるワードの発表 互いに評価して、みんなが納得できるものにする
12	生徒募集コンテンツを考える	どこの誰にむけるか（ペルソナ） どんなことを伝えるか（ブランディングストーリー） NBLに来ることのメリット（商品価値）
13	募集コンテンツを作る	ビジュアルも含めた募集コンテンツをInstagramなどで作成 募集コンテンツのゴールをどうするか決め投稿する
14	結果判定を理解する	アクセスログをみて、そのコンテンツが役立ったかを判断する
15	後期まとめ	後期の振り返りと試験について

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	講師の実際の業務のなかで守秘義務契約に触れない範囲のものを適時提供
備考	なし

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	SNS		（ NKT13T ）
講義名（コード）	SNS		（ NKT13TX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	梶原 優輝	時間数	30
成績評価教員	梶原 優輝	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	SNS等を用いて自分の伝えたい情報を分かりやすく発信できるようにする
全体の内容と概要	自身でテーマを設定したり、決められたテーマに沿って制作した映像をオンラインにアップし分析・考察する
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	映像の活用方法をそれぞれが見出し方針を決める	前期の動画マーケティングのおさらいと後期の方針の確認
2	SNSについて知識を深める	SNSとは
3	映像を制作する目的や方向を考えることに意識を向ける	映像のテーマを考えてみよう
4	メッセージが伝わる映像の組み立て方を考える	映像の構成を考えてみよう
5	決められた段取りに沿って動画を撮影することの重要性を理解する	制作(動画撮影)
6	決められたテーマや伝えたい情報を意識しながら映像を編集する	制作(動画編集)
7	考えた構成通りのものができているか、撮影素材の大切さを理解する	制作(動画編集～書き出し)
8	計画して制作した映像を観て流れを再確認する	発表・講評
9	指定された目的を達成する映像を制作するために企画・スケジューリングする	映像制作の依頼を受けてみよう
10	撮影に必要な機材やセッティングについて計画する	企画を進行する計画を立てよう
11	時間内に準備～撤収	制作(動画撮影)
12	役割分担する等、グループワークの練習	制作(動画編集)
13	映像をチェックし目的が達成されているか再確認する	制作(動画編集)
14	筆記試験・制作物提出等	期末テスト(制作物提出+映像制作への理解度チェックのための筆記試験)
15	総評	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	マーケティング基礎Ⅱ		（ NKT14A ）
講義名（コード）	マーケティング基礎ⅡF		（ NKT14AF ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	尾崎 樹里子	時間数	30
成績評価教員	尾崎 樹里子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	・企業経営におけるマーケティングの位置づけを理解する。 ・マーケティングの専門用語、ツールに慣れ、デジタルマーケティング授業において本質を理解して取り組める
全体の内容と概要	・マーケティングの本質を理解した上で、マーケティング活動の要素を学ぶ ・身近な環境の中でマーケティングの要素を探求し、実習を通じて知識の理解を深める
授業時間外の学修	・自身や、家族、友人の購買行動に関心を持つ ・企業が発信している情報に関心を持ち、マーケティングの要素を発見する
履修上の注意事項等	・実習では積極的に行動し、チームで協力し合って活動する

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期を振り返り、マーケティングの基礎の理解を深める	・課題図書の感想の発表 ・前期授業の振り返り
2	企業経営の中のマーケティングの役割を理解できる	・企業経営の中のマーケティング ・事業戦略における分析手法（SWOT、3C、5F）
3	製品ライフサイクルと生き残るための戦略を理解できる	・製品ライフサイクルと競争戦略 ・競争戦略/アンゾフの戦略/ポーターの戦略/PPM
4	販売戦略について概要を理解できる	・営業の方法、営業プロセスを学ぶ
5	上田の街の商店などのプロモーション戦略を調査し、分析できる	・チームで身近な商店などのプロモーションを以下の観点で調査し、分析する 店舗、品揃え、Web、観光案内所などとの連携、駅でのアピールほか
6	上田の街の商店などの分析結果、改善案をまとめて発表できる	・分析結果をまとめ、発表する
7	業界構造について理解できる	・産業構造（業界構造）はどのようなになっているか ・業界別のマーケティングの観点
8	マーケティングを活用した新製品開発プロセスを理解できる	・新商品開発、既存商品の改良プロセス ・PDCAとはなにか
9	マーケティングを活用した新製品企画を検討できる	・チームで新製品の企画を行う ・市場調査、STP、4P を活用して検討する。また、競合調査を行う
10	新製品企画を検討できる	・新製品に関するプロモーションとして、パンフレット、ポスターを作成する
11	新製品企画をまとめることができる	・新製品に関して、STP、4P、プロモーションとして検討したものを活用して、活動をまとめる
12	新製品企画発表できる	・チームごとに発表する ・聞き手は、この商品の特徴、強みなどについて伝わったかどうか、フィードバックする
13	マーケティングコンセプトと、マーケティングの社会的責任を理解できる	・マーケティングコンセプトの総括、社会的責任 ・「なぜ、自分はこの商品を購入したのか」改めて考える
14	後期試験	【後期試験】
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	18歳からのマーケティング基礎知識、1からのマーケティング ほか
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	英語資格対策Ⅱ		（ NKT15D ）
講義名（コード）	英語資格対策ⅡA		（ NKT15DA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	英検準2級以上に合格する。
全体の内容と概要	準2級取得のための対策と問題に取り組む。
授業時間外の学修	「でる順パス単」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	単語601～650 準2級の過去問題に挑戦する	自分の現在の実力を知り、後期に力を入れるべき箇所を知る。
2	単語651～700 / listeningの特徴 がわかるようになる	英検listeningの特徴を知り、問題に取り組む。
3	単語701～750/聞き取れないと ころが聞けるようになる	過去問のlisteningに挑戦し聴きとれない部分を重点的に繰り返し聞く。
4	単語751～800 準2級の過去問題に挑戦する	準2級の過去問題集からの長文を解き、自分の弱点を知る。
5	単語 801～850 / 長文の読み方や出 題傾向がわかるようになる	英検長文の特徴を知り、時間内に読む練習をする。
6	単語851～900 準2級の過去問題に挑戦する	後期最初の授業時と比較し、自分の進み具合を知り勉強法を考える。
7	単語901～950 / 作文の書き方が 理解できるようになる 1	文章を書く際の構成を学ぶ。
8	単語951～1000 / 作文の書き方 が理解できるようになる 2	与えられたトピックを使って自分の意見を書いてみる。
9	単語1001～1050 準2級の過去問題に挑戦する	listening・穴埋め・長文・作文を時間内に行う。
10	Speakingのテストの構成を理解 することができるようになる	Speakingのテストの構成を理解し、どのように受け答えするかを学ぶ。
11	面接の練習をし、自信をもって 受け答えができるようになる	面接の練習をする。
12	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	英検準2級でる順パス単、肘井学のゼロから英文法
参考文献・資料等	英検準2級過去問集（2025年度版）、英検準2級総合対策教本
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	英語資格対策Ⅱ		（ NKT15D ）
講義名（コード）	英語資格対策ⅡB		（ NKT15DB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	英検2級・準1級を取得する
全体の内容と概要	英検2級・準1級に必要な文法・語彙・熟語を習得し、それぞれの級の練習問題に取り組む。
授業時間外の学修	受験する級の語彙を増やし、問題集に取り組む
履修上の注意事項等	英検の試験日に合わせた対策をする

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	現在完了・過去完了を理解できる	現在完了形と過去完了形の違いを学習する/ 長文読解
2	受動態を理解できる	現在・過去・未来・助動詞がはいつた受動態を使えるようにする/ 穴埋め問題
3	分詞の基本を理解できる	現在分詞・過去分詞を使った後置修飾を学習/ 長文読解
4	分詞構文を理解できる	分詞構文の構造を学び自分で文章を作ってみる/ 穴埋め問題
5	2級・準1級の熟語を覚える ①	熟語の練習問題に挑戦してみる/ 長文読解
6	2級・準1級の熟語を覚える ②	熟語の穴埋め問題に挑戦する/ 長文読解
7	作文の書き方を理解できる	作文の書き方を学習した後、過去問題集からトピックを選び実践練習
8	リスニング問題の注意点等を理解できる ①	友人との会話・ビジネス・接客等の場面での受け答え練習/ 長文読解
9	リスニング問題の注意点等を理解できる ②	電話・説明文・アナウンスで使われるフレーズ、表現を学ぶ/ 長文読解
10	熟語の復習テスト	熟語の穴埋めテストをして期末試験に備える/ 長文読解
11	各級の過去問題を時間内で解けるようになる	決められた時間内で回答できるように時間配分に注意しながら問題を解く練習をする
12	各級の過去問題を時間内で解けるようになる	決められた時間内で回答できるように時間配分に注意しながら問題を解く練習をする
13	テストの対策	熟語・作文・穴埋め・リスニングの復習をする
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	英検準1級集中ゼミ（旺文社）・英検2級集中ゼミ（旺文社）
参考文献・資料等	英検2級過去6回全問題集/ 英検準1級過去6回問題集
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化理解 I		（ NKT15G ）
講義名（コード）	異文化理解 I G		（ NKT15GG ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	さまざまな国の文化・考え方を学んでお互いに教えあったり認め合うことができるようにする
全体の内容と概要	各国ごとの冠婚葬祭・ジェスチャー・社会問題などのテーマについて意見交換や発表などをする そうすることでお互いの文化の違いを教えあい、認め合うことができるようにする
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう
履修上の注意事項等	発表が多いので事前準備をしっかり行う事が重要です

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	異文化を理解する目的を改めて知る	それぞれの学科の学習目標を提示し、異文化を理解することの必要性、異文化理解できていない場合どんなことがおきるかなども含めて学習する
2	異文化摩擦について理解できる	異文化摩擦の例を示したり、学生間で異文化摩擦の体験などもシェアしながら異文化摩擦とはということについて学習していく
3	自分をふりかえることで、コミュニケーションがとりやすくなる方法を知る	グループを作りジョハリの窓、学習スタイル、対立管理スタイル、異文化対応力について自分を数値的に理解する。
4	非言語コミュニケーションやパラ言語について理解し、考察する	アイコンタクトの意味と受け取り方、表情が与える誤解、ジェスチャー、パーソナルスペース、時間などについてクラス内で意見を交換する
5	様々な国での催事を知ること その国の文化を理解することができる	学生を国ごとのグループに分け、その国の催事について発表をするための準備をする
6	様々な国での催事を知ること その国の文化を理解することができる	催事についての発表
7	様々な国の生活について わかるようになる	様々な国の人々の生活をビデオでみる（家、街中の様子、仕事、学校の様子、休日の過ごし方など）各自興味がある国について調べてまとめる
8	様々な国の生活について わかるようになる	クラスメートに知ってもらいたい自分の国での生活の様子を調べてまとめる
9	様々な国の生活について わかるようになる	自国の生活について国別に分かれて発表する
10	世界の衣食住の歴史について 知ることができる	日本の食文化の歴史の紹介と世界の様々な国の食についてビデオで見て、自分の国と比べてみる
11	世界の衣食住の歴史について 知ることができる	自国の衣食住の歴史について調べ、まとめる
12	世界の衣食住の歴史について 知ることができる	衣食住発表準備
13	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
14	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
15	まとめと解説	今までの授業を通じてのまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	グローバルな時代を生きるための異文化理解入門・日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネス英語Ⅳ		（ NKT24B ）
講義名（コード）	ビジネス英語ⅣB		（ NKT24BB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、スピーキングの練習を中心にコミュニケーション能力向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	【海外出張】ホテルでのやり取りができるようになる	ホテルでのやり取りの仕方を学び練習する。
2	【海外出張】レストランで注文ができるようになる	レストランでの注文の仕方を学び練習する。
3	【海外出張】交通機関の利用・食事の買い出し等ができるようになる	交通機関の利用や食事の買い出しなどを練習する。
4	1～3回目 【海外出張】 の復習	様々な場面を想定して練習する。
5	【打ち合わせ】商談を行えるようになる	商談の仕方を学びペアで練習する。
6	【打ち合わせ】お客様の予約を取れるようになる	お客様の予約の取り方を学びペアで練習する。
7	同僚とスモールトークすることができるようになる	同僚とスモールトークできるように練習する。
8	5～7回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
9	苦情を言うことができ、対処することができるようになる	苦情の伝え方と対処方法を学び練習する。
10	面接の対応ができるようになる	面接対応の仕方を練習する。
11	仕事を依頼し、支持することができるようになる	仕事を依頼し、指示できるようになる練習をする
12	9～11回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
13	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	新装版 即戦力がつくビジネス英会話
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、本当に必要な社内英語、Business as Usual
備考	